

夜間寝室での自動給餌機の使用について

庄子 泰之¹⁾ 先崎 優¹⁾ 半澤 紗由里¹⁾ 安藤 正人¹⁾ 須藤 一行¹⁾ ○井川 阿久里¹⁾

金澤 朋子²⁾

¹⁾横浜市立金沢動物園 ²⁾日本大学

当園では飼育員が不在となる夜間の常同行動の改善策として採食時間の増加を目指し、新たにベルトコンベアを使用した給餌機を導入した。今回はその使用方法と効果測定について報告する。

ベルトコンベアは市販品で夜間にタイマー設定により、複数回給餌を行えるよう超低速の設定のできる機種を選択した。ベルトコンベアからの餌を受けるために寝室上部の柵に専用の餌箱と、箱上から鼻を入れられないよう新たなフェンスを設置した。餌箱の開口部はゾウの鼻が通る程度の穴を2か所作り、箱の中の餌を一度にとられないようにした。ベルトコンベアは既存の梁に沿う形で2階管理通路から餌箱をつなぐように設置した。

日本大学との共同研究で、効果測定を実施。No.1 オスについての監視カメラによる行動観察を行った。通常寝室での夜間の様子とベルトコンベアを稼働した際の行動変化について調査した。結果、全体の採食時間に大きな変化はみられなかった。行動については通常時に比べ、ベルトコンベア使用期間中は操作行動が増加し、常同行動の減少が確認できた。ベルトコンベアの設置によって今まで活用していなかった施設上部からの給餌が可能になり、ゾウの意識が上部へも向くことでベルトコンベアの稼働時間でなくとも探索行動を増やすことができた。しかし、本来届かないと想定した場所まで鼻が届くようになり、給餌できる回数が減ってしまったり、横臥睡眠中にベルトコンベアが作動してしまい、睡眠を妨げた様子も観察できたため、今後使用頻度や稼働時間などについて検討が必要となる。今年度クラウドファンディングによる寄付金によってメスの寝室へも同様の設備の設置が予定されているので、今回の結果を生かして改良していきたい。